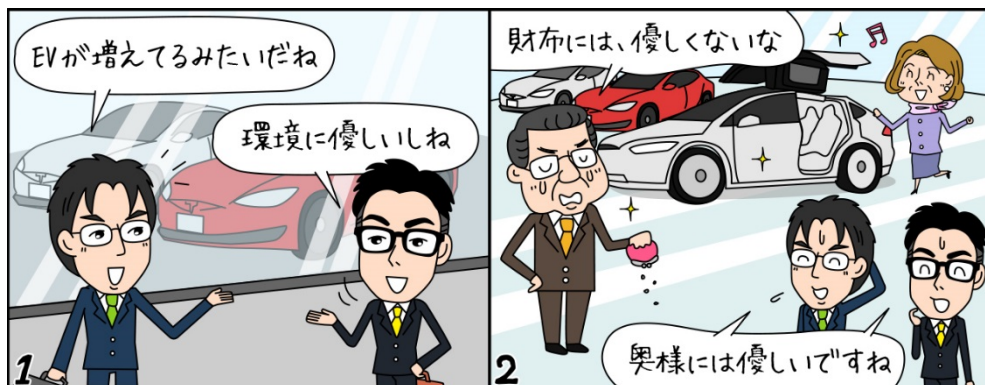


「新人目線」の用語解説

# 語句よみ

第184号



## 今回のテーマ 急速な拡大が予想されるEV市場

消費者の環境意識の高まりや各国の法整備などを背景に、EV（電気自動車）が次世代エコカーの主役として急浮上しています。今回は、次世代エコカーの代表格であるEVとFCV（燃料電池車）について調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。お客様に有益な情報をお伝えすべく、投信や経済について勉強中。

## 1. EV(Electric Vehicle)

EVとは、電動モーターでタイヤを駆動させる仕組みの自動車のことです。ガソリン車がガソリンをエンジンで燃焼させるのに対して、EVは、蓄電池に蓄えた電気を使って、電動モーターを回転させます。近年、資源の制約や消費者の環境意識の高まりに加えて、国の環境規制や購入時の補助金の充実などを背景に、EV市場が拡大しています。

次世代カーとして、足元で注目され始めたEVですが、実はその歴史はガソリン車よりも古く、1839年に世界初のEVが製造されました。その後、1950年代にガソリン車が普及するまでは、EVが自動車の主流として活躍していました。

一度はガソリン車に主役の座を奪われたEVですが、今年に入り、さらなるEVの普及を目指す動きが相次いでいます。4月にインド政府が、2030年までに新車販売の全てをEVにする目標を掲げたほか、フランスや英国では、2040年以降のガソリン車およびディーゼル車の販売を全面的に禁止すると発表、中国も同様の規制を検討していることが明らかになりました。主要な自動車市場である中国や欧州のこうした動きは、世界の自動車メーカーの勢力図に大きな影響を与えるとみられ、実際に欧州の大手メーカーがガソリン車

## ステップアップ

アジアの国々で、住民や観光客の足として活躍する3輪タクシーにも電動化の波が押し寄せています。インドやバングラデシュなどでは、電気3輪車の販売が開始されているほか、フィリピンやラオスなどでも、深刻な大気汚染や騒音対策として、国が主導して、電気3輪車を普及させる動きが出ています。



(次のページへ続きます)

□当資料は、日興アセットマネジメントが経済一般・関連用語についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

などの段階的な廃止を表明するなどの動きがみられています。

各国がEVへのシフトを打ち出す背景には、深刻な大気汚染などのほか、中国やインドの場合、ガソリン車などで先行する日米欧の自動車メーカーに対する遅れを挽回する狙いもあるとみられます。

市場が拡大する一方で、EVIには課題もあります。ガソリン車と比べて、航続距離が短い、充電時間が長い、長期利用で電池が劣化し航続距離が減少するといった性能面の問題や車両価格の高さ、EVの普及に伴ない増加する電力の確保などが普及のハードルになるとみられます。

こうした課題を克服するため、容量が大きく、充電時間が大幅に短縮され、充電による劣化も少ない次世代蓄電池の開発が進んでいるほか、道路に設置したコイルから走行中に充電する無線給電の研究が進むなど、EVの普及に向けた取り組みが続いています。

## 2. FCV (Fuel Cell Vehicle)

次世代エコカーの代表格として、EVと並んで注目されているのがFCV(燃料電池自動車)です。FCVは、電気でもーターを回して駆動する点ではEVと一緒にですが、EVは車内の蓄電池に貯めた電気を使うのに対して、FCVは燃料電池を使って発電した電気を使います。また、ガソリンスタンドで燃料を補給するように、FCVは水素ステーションで燃料となる水素を補給します。

FCVの歴史は、EVなどと比べて新しく、道路を走行できるものとしては、1966年に開発されたものが最初とされています。2014年に日本の大手自動車メーカーが世界初の量産FCVを発売したことで話題となりました。

FCVは、走行時に排出するのが水のみで、温暖化ガスなどを排出しない環境性能の高さに加え、ガソリン車並みに航続距離が長く、補給時間が短いなどの点で、EVに対して優位性があります。また、燃料となる水素は、天然ガスなど、石油以外の多様な原料やエネルギーから作ることが可能というメリットがあります。一方で、安全対策などの観点から、車両の製造や水素ステーションの設置にかかるコストが高額になるという課題もあり、EVと比べ、普及が遅れています。

FCVやEVの研究・開発には、多額の開発費がかかることから、今後、自動車メーカーや新規参入企業などの間で、資本・技術提携が活発化するとみられ、今後の業界動向が注目されます。

様々な課題が残されているものの、EVへのシフトは着々と進んでいるようです。EVの普及は、自動車関連業界に幅広く影響することから、各国の政策に注目が集まります。

### ステップアップ

この他、代表的なエコカーとして、ガソリンと電気の両方を使い分けて走るHV(ハイブリッドカー)や、ガソリンの代わりにLNG(液化天然ガス)を燃料とするLNG自動車などがあります。LNG自動車は、ディーゼル車などと比べて大気汚染物質や温暖化ガスが少なく、航続距離も長いことから、大型トラックやバスなどでの活用が期待されています。



facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

□当資料は、日興アセットマネジメントが経済一般・関連用語についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。